

学校教育係 国語科における「単元を貫く言語活動」を通じた指導事項の指導

国語科では、子どもたちが基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究できる力を身に付けられるように、「単元を貫く言語活動」を位置付けることが大切です。管内でもこうした取組が進められていますが、「読むこと」の指導において、言語活動を通して指導事項を指導するのが難しいという声が聞かれます。そこで今回は、その課題を解決するために2つのポイントを示します。

課題 「読むこと」の指導において、言語活動を通してどのように指導事項を指導するのか。

ポイント① 指導事項に応じて言語活動の選択をしましょう。

ポイント② 指導事項に応じて言語活動を具体化しましょう。

〈課題解決に向けた授業づくり〉

小学校5年 棕鳩十「大造じいさんとガン」(学校図書)

指導事項エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」

ポイント①



「本の帯に推薦文を書かせる」か「朗読劇をさせる」か、どちらの言語活動にしようか迷っています。朗読劇の方がいきいきと取り組めそうなのですが……。

指導事項エには、「優れた叙述について自分の考えをまとめること」とありますが、朗読劇を通して、このことを指導できそうですか。



朗読劇だと、優れた叙述について自分の考えをまとめることが難しいかもしれません。本の帯に推薦文を書かせる方が指導事項に確実に結び付きそうです。

(国語主任)

ポイント②



児童は、「推薦文を書く」と聞くと、ストーリーの面白さだけを推薦してしまうのではないかと心配です。

推薦したいところを探す際に、例えば「登場人物の関係や心情がよくわかる描写」「場面の様子がよくわかる描写」のように指導事項エに結び付く観点を示してはどうですか。推薦する理由もこの観点から書かせればよいですね。



なるほど、指導事項エに応じて観点を示し、どの部分をなぜ推薦するのか考えさせることで、指導のねらいに合った推薦文を書くことができそうですね。

さらに、単元の指導過程を充実したり、子どもたちが学習のめあてを明確にもてるようにしたりするなど工夫することにより、「単元を貫く言語活動」の充実を図ることができます。

「単元を貫く言語活動」の更なる充実のために



棕鳩十の他の作品を並行読書させて、単元の最後に同じ観点で推薦文を書かせたいと思います。

それならば、児童が単元を通して何を学習するのか、めあてを明確にもって、主体的に学習できるように、「棕鳩十の作品を、登場人物の関係や心情、場面の様子がよくわかる描写を探しながら読み、本の帯で推薦しよう」という課題を、単元の導入で示してはどうでしょう。



言語活動を通じた指導においては、単元の目標を達成するために、指導事項を意識した単元構想とそれに基づいた毎時間の授業づくりが大切です。